

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復師学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名		柔道整復実技Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	後期	教室名	第2校舎202教室
担 当 教 員		伊黒浩二	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》							
臨床でよく目にする上肢の脱臼の発生機序、症状、施術方法、経過と予後について学習し各損傷について、柔道整復師の施術範囲の鑑別や適応の判断や応急処置について理解を深め、各損傷に対する、施術適応の判断ができ、適応となる損傷に対して適切な施術を行えるようになることを目標とする。							
《成績評価の方法と基準》							
期末試験評価:100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編(全国柔道整復学校協会編集) PC, プロジェクター 【参考図書】標準整形外科学(改訂第12版:医学書院)							
《授業外における学習方法》							
講義の内容確認の為、次回講義開始後、10分間を前回の講義復習時間とし、教科書、配布プリントの内容を中心に復習し、各項目ごとに小テストを実施。 学習したことを定着させる為、必ず毎回の講義範囲を復習すること。							
《履修に当たっての留意点》							
1年生の前期で総論が終了し、前期から柔道整復学各論となります。解剖学の骨筋の復習や機能解剖を学習し、脱臼とは何か、軟部組織とは何かなど構造的に学び、外傷である脱臼、軟部組織損傷とはなにかを理論的に学習していき、柔道整復学理論は暗記ではなく理屈を考え学習していきましょう。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 実習形式	授業を通じての 到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	前期履修内容の確認と復習をすること	
	各コマにおける 授業予定	2-5. 前腕部の損傷 A・機能解剖					
第2回	講義 実習形式	授業を通じての 到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと	
	各コマにおける 授業予定	C・前腕部の軟部組織損傷					
第3回	講義 実習形式	授業を通じての 到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと	
	各コマにおける 授業予定	3-2. 股関節部の損傷 A・機能解剖					
第4回	講義 実習形式	授業を通じての 到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと	
	各コマにおける 授業予定	C・股関節脱臼					
第5回	講義 実習形式	授業を通じての 到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる		教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと	
	各コマにおける 授業予定	D・股関節の軟部組織損傷					

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマにおける授業予定	E・股関節部の軟部組織損傷①			
第7回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマにおける授業予定	3-3. 大腿部の損傷 A・機能解剖			
第8回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマにおける授業予定	3-4. 膝関節部の損傷 A・機能解剖 D・膝関節脱臼			
第9回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマにおける授業予定	G・膝関節の軟部組織損傷 H・注意すべき疾患			
第10回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマにおける授業予定	3-5. 下腿部の損傷 C・下腿部の軟部組織損傷			
第11回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマにおける授業予定	3-6. 足関節部の損傷 A・機能解剖 D・足関節部の脱臼			
第12回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマにおける授業予定	E・足関節部の軟部組織損傷 F・注意すべき疾患 3-7. 足・指部の損傷 A・機能解剖			
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	講義の復習と次回講義の予習をしておくこと
	各コマにおける授業予定	E・足根部の脱臼と軟部組織損傷 F・足指節関節・指節間関節脱臼			
第14回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	各項目ごとの小テストに解答でき、復習時間の質問に答えられる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	教科書と配布資料を用いて、後期講義の総復習をしておく
	各コマにおける授業予定	後期講義の復習①			
第15回	講義実習形式	授業を通じての到達目標	履修内容の国家試験に準じた問題が解けるようになる	教科書(柔道整復学理論編・実技編)、配布プリント	まとめて理解できていない部分について、教科書等を参照に確認する
	各コマにおける授業予定	まとめ			